

ワークショップ II (竹岡「ヒカリモ発生地」)

申し込み以降に全く連絡が取れず要旨が間に合わなかった例などがありましたので、学生会員には、申込時に指導教官のメールをccに記入して送るようにしてもらおう方がよいです。

(2) 読めないような汚い(あるいは小さい)字の手書きの申込をPDFやFAXで送られて困りました。基本はワープロ入力した参加票の電子メールとして徹底すべきです。余談ですが、筆

者のオフィスの機器と相性の悪い機器から送られたFAXが受信できず、何度も呼び出し音が鳴り続けるのには閉口しました。なお、今回は、前回までにならない、講演要旨もメールだけでなくFAXで送ってもらうことにしましたが、実際にはFAXは不要と思われます。メールにおいて、貼付ならいざ知らず、添付であれば文字化けはほとんどないし、本人の責任ということで処理した方がよいと思います。お互いに「紙と時間と労力の無駄」と思いました。なお、メールは便利な通信手段ではありますが、誤字脱字、あるいは共著者の取捨などの関係で、著者から何回も要旨を送り直される場合があります。混乱のもとなので、受付は1回に限る旨を注意しておくべきでしょう。

筆者個人としては、第18回富山大会以来の学会開催でしたが、それ以降、大会は参加者が増加の一途を辿り、また、多様化し、若い世代も増えていることを体感しました。今後とも正確かつスムーズな事務処理ができるようにしていく必要があると思います。

第32回大会の実行委員会は下記の通りです：
能登谷正浩(大会長・公開シンポジウム)、田中次郎(要旨集・ワークショップII)、大葉英雄(会計)・鈴木秀和(会場)、藤田大介(実行責任・共催シンポジウム)。このほか、大会では、東京海洋大学の藻類学教室、応用藻類学研究室の学生やOB諸氏に全面的にご協力いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。(文責：藤田大介)

特別展

「海からの恵み 海藻 —広がる未来への夢—」

2008年7月12日(土)～9月23日(祝)

三重県鳥羽市にある海の博物館では、7月12日(土)より2ヶ月ほどの期間、海藻の幅広い利用を紹介する特別展「海からの恵み 海藻 —広がる未来への夢—」を開催しています。古代からどのような海藻類を利用してきたのか、現代の海藻利用はどのような品々に生かされているのかなどを紹介するとともに、これからの海藻類の活用について考えてみようという特別展です。会場には、20数点の食用海藻のおしば標本や海松文様(左写真)、ヒジキ縞、貝海藻文などの海藻にちなんだ文様を使った資料も展示しています。多くの子供たちに海からの恵みである海藻について興味を持っていただけることを願っています。(平賀大蔵)

【海の博物館】

所在地：三重県鳥羽市浦村町

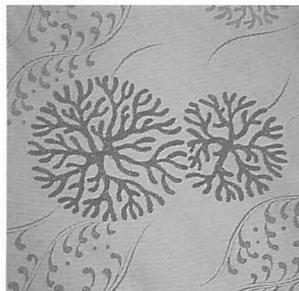
交通：JR・近鉄「鳥羽」駅下車よりパールロード経由の三重交通バスで25分「海の博物館前」下車 徒歩7分 車の場合：伊勢自動車道伊勢インターから約25キロ(25分)、パールロード麻生の浦大橋から3キロ先左折

入館料：大人800円、高校生以下400円、団体割引などあり

連絡先：〒517-0025 三重県鳥羽市浦村町大吉
1731-68 海の博物館

Tel 0599-32-6006 Fax 0599-32-5581

URL：http://www.umihaku.com



着物などに見られる海松の丸の文様



藻の見遊山